

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800398		
法人名	特定非営利活動法人宅老所あいの家		
事業所名	グループホームあいの家		
所在地	下関市豊浦町大字宇賀7378-19		
自己評価作成日	令和2年5月31日	評価結果市町受理日	令和3年6月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和2年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

此処は顔見知りの人がいて安全で安心して生活が出来るような環境作りをする。 季節感を出した食事作り、おやつ作りをしている。 季節の花が玄関から居間食堂といつも飾ってある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者に寄り添われて、一緒にゆったりとしたくつろいだ時間を過ごすことを大切にされ、利用者との会話の際には、声のトーンに気をつけて命令口調にならないように、やさしく話しかけることを心がけておられます。利用者が安心して自分らしく暮らせるように、思いや意向の把握に努められ、一人ひとりのペースに合った支援に取り組んでおられます。利用者と職員が一緒に作成された季節のちぎり絵は、地元の郵便局に10年以上継続して、毎月掲示されており、地域の人から次回作品へ期待の声がかかるなど、地域の人との交流の場であり、利用者にとっては楽しい活動の場となるように取り組んでおられます。運営推進会議では、利用者の日々の暮らしの状況や事業所の取組みについて日を追って報告をされた後に、事業所で取り組んでおられる熱中症対策や防災訓練の取組み状況についての意見交換されたり、地域で開催している認知症カフェの紹介があるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は玄関に掲示してある。職員の名札にも記されていて、全職員が目標に向かい共有している。 月、水、金その日の勤務者が朝礼で唱和している。 普通の生活を大切に、ゆっくりと過ごしていただけるよう。いつもその方の気持ちにより添うことを心掛けている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は理念を名札に記載して携帯し、週3回、朝礼時に唱和すると共に、月1回のカンファレンス時や週1回のミーティング時に理念について話し合い共有している。利用者は「ゆったり、のんびりとした暮らしになっているか」を大切にして、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来理想とするグループホームの利用者の状況と大きくかけ離れているため、項目2つについては実現困難であると思う。	自治会に加入し、利用者は神社の秋祭りの福引やハートフルクリスマス、公園の桜見物に職員と一緒に外かけて地域の人と交流している。地元の郵便局に、利用者合同で作成した季節のちぎり絵(今月は花火と西瓜)を、毎月、10年以上継続して掲示してもらっており、局員や地元の人とから「次回はどんな作品？」と期待の声がかかるほど、顔なじみになっている。地元の保育園児の来訪があり、遊戯をしたり歌を歌ってふれあいをしている。ボランティアとして月2回、アロママッサージの来訪(3月から新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止)がある他、防災予防の声かけを目的に2カ月に1度、地元消防団の来訪がある。利用者は事業所の前庭を歩きかう地元の人と挨拶を交わし、季節の花や野菜、手づくりの花籠、観賞用かぼちゃの差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回郵便局に利用者制作のちぎり絵を掲示している。 次回はどんな作品かと期待されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義については全員が理解していると思う。いろいろな意見が出るようになり改善につなげている。	代表者は職員に週1回のミーティング時に評価の意義を説明し、ミーティング時や月1回以上実施するカンファレンスの中で、職員一人ひとりから意見を聞いてまとめている。職員は自己評価を通して日々のケアやサービスを振り返り、見直しや改善について発言するようになっている。前回の外部評価結果を受けて、全職員での自己評価の取組みや外部研修への参加等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議をしている。 自治会長、市民生活課課長、包括支援センター、駐在、地域住民、家族、利用者、職員で報告、状況、意見交換をして、サービス向上に活かすように努めている。	会議は2ヶ月に1回開催している・(今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為2回中止)利用者の状況や活動状況、事故報告、外部評価結果、職員の研修、面会状況等、逐次、日を追って報告の後、話し合いをしている。事業所で実施している熱中症対策や防災訓練の取組状況を詳細に説明して意見交換をしたり、地域での認知症カフェの紹介があるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要なときには連絡をする。	市担当者とは運営推進会議時や電話の他、直接出かけて情報交換や相談を行い助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員拘束しないケアを正しく理解、共有し、自己の介護に取り組んでいる。 新しい職員にはその都度説明等をしているがなかなか正確に理解しにくいようなので年間を通してカンファレンスの中で説明と検討会をしている。	職員は身体拘束についてのマニュアルを基に内部研修で学び、3ヶ月に1回、「身体拘束適正化検討委員会」を実施する中で、身体拘束、虐待の内容や弊害について正しく理解している。スピーチロックについては管理者が指導している他、職員間でも注意し合っている。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば、職員が一緒に出かけたり、気分転換の工夫をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で虐待防止に努めている。 身体的、精神的虐待防止、特に言葉による虐待の防止に努め、叱らず、まずは受け入れることを実践している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば、学ぶように努めている。 業務上実際に成年後見制度等に関する事があった時には職員に内容を説明している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解してもらっている。 契約については話し合い、納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情箱は設置し、第三者委員も選任し、苦情処理の手続定めている。利用者や家族の方にもそのことは伝えている。 玄関に苦情箱を設置している。 気軽に意見が出せるように工夫している。	相談、苦情の受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時、行事(ハートフルクリスマス、蜜柑狩り)参加時、電話等で家族から意見や要望を聞く機会を設けている。苦情箱を設置している。管理者は、利用者の健康状況や受診状況、日々の状態に変化があれば、直ぐに電話で報告し、毎月、家族宛に利用者の健康状況や往診結果、医師からのコメント、請求書等を送付すると共に、来訪時には管理者の方から利用者の日頃の様子を伝えて、意見や要望が言いやすいように工夫している。個別ケアに関する意見や要望は「介護日誌」に記録して、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の職員の会議で意見を聴く機会を設けている。話しやすい雰囲気作りに努めている。	代表者や管理者は週1回実施しているミーティング時や月1回以上実施しているカンファレンスの中で職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、職員との食事会を設けて、日頃から気軽に意見が言えるよう雰囲気づくりに努めている。職員からは、ケア用品やサービス提供のための細々とした備品の購入や、物品の整理、整頓の為の倉庫の設置についての意見があり、必要な備品の購入や大型倉庫2台を設置するなど、運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が働き甲斐のある働きやすい環境、勤務時間の希望を聞き入れた職場づくりに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望に応じ、勤務の一環として受講の機会を提供している。また資料等は常時閲覧できるようにしている。事業所内で勉強会など行い働きながら知識と技術を学べるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度は「看取り」に4名参加し、受講後は内部研修で伝達してもらい、資料は閲覧できるようにして職員間で共有している。内部研修は、代表者や管理者、主任が講師となって、年2回、看取りについてや身体拘束、虐待防止について実施している他、カンファレンスやミーティング時に、職員からの不安に思うことや疑問に思うこと、分からないこと、時宜に応じた必要なことをテーマに勉強会を実施している。新人研修は日々の業務の中で管理者や先輩職員の指導を受けて介護の知識や技術を学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の人員配置を優先するため、外部との交流を図る余裕がない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が1番困っていること、不安なこと等、要望を聞き(主に家族)、全職員がカンファレンス等で話し合い、本人が安心して過ごせる環境づくりを目指している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階に限らず、問題が出た時点で話し合いをして対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護職員は先ず1番に何が必要かを見極め、カンファレンス等を行い、他のサービスなどを含め必要な支援は何かを見いだすように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げている「できることはしていただく」をモットーに残存能力を引き出し活用できるように支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が聞ける範囲で聞き出し、何か問題があれば家族に連絡し本人のために大事なことは何かを家族との絆を大切にし本人を支える関係作りに努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	設問の意味が理解できない。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人、消防団員の来訪など、毎月20組くらいの来訪がある。職員と一緒に馴染みの神社の福引行事やハートフルクリスマスに出かけ、地域の郵便局に利用者のちぎり絵作品を毎月掲示して、地域の人と交流している。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や墓参、寺参り、外出等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	異常な発言が続いたり、口論となりそうなときは直ぐ介護者が中に入り、話題を変えたり、又独り孤立している場合には話しかけたり気分転換に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	していない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、家族からの情報、本人との日常会話の中から意向や食べたいものを聞き出し職員間で共有している。	入居時には本人や家族、前施設からの情報提供書をもとに、これまでの暮らしや嗜好、趣味等の基本情報をアセスメントシートに記録している。日々の関わりの中で利用者一人ひとりに寄り添い、利用者の笑顔になった場面や機嫌が良い場面、関心を示したこと、好きな食べ物などの他、利用者の表情や言葉、行動を介護日誌に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で把握に努めているが時には言いたくない、思い出したくないなどの発言もあり、個々にあった会話に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活状況を把握しながら残存能力の維持に努め、安心できる場所としての認識を持ってもらえるように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いはなかなか難しい。 計画作成担当者を中心にカンファレンス等で全職員の意見も取り入れて介護計画を作成している。	計画作成担当者が中心になって 月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の思いや意向、主治医や看護師の意見を参考にして全職員で話し合い、介護計画を作成している。事業所独自の介護日誌を作成して、毎日の身体状況（バイタル、排泄状況、食事の摂取量、水分摂取量等）やケアの状況を記録して、変化を確認できるようにしている。6カ月から1年毎にモニタリングを実施し、介護計画の見直しをしている。利用者の状態に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は日誌に記録している。 申し送り、カンファレンスで問題点を話し合い実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんからの突然の要求(帰宅要求等)にできるだけ対応する。 事前に家族との話し合いも進めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の往診。医師からのコメントは家族に知らせ、家族からの質問は医師に伝え、適切な医療の支援を受けている。	本人、家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援をしている。歯科は必要に応じて往診がある。受診結果は「申し送りノート」や「介護日誌」に記録して職員間で共有し、家族には直ぐに電話で報告し、毎月、往診結果と医師のコメントを文書で送付している。毎日、健康チェックを行い、状態の変化を見逃さず管理者に報告し、協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ていないが、毎日の健康チェックは職員が行っている。 バイタルチェックの度に管理者に報告している。 また、問題発生時直ちに管理者等に報告。 その後の受診または他の処置は適切に支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は掛かり付け医との連携で適切に出来ている。 入院後は見舞いを兼ね訪問し、関係作りは適切に出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から話している。 何度もカンファレンスで職員同士話し合っている。支援を行っている。	重度化した場合や終末期に事業所でできる対応について契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は早い段階から主治医の指示のもと、家族と話し合い、方針を決め、移設も含めて、チームで支援に取り組んでいる。職員は外部研修で看取りについて学んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	所内で勉強会。 臨時に訓練等をしている。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット報告書、事故報告書に発生状況、対応の経過と結果、反省と改善策を記録し、管理者が指導内容を書き加えた後に全員に回覧し共有している。申し送り時やカンファレンスで再度検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。職員は、車椅子への移乗方法や転倒、誤薬、食中毒、感染防止の為に手洗いとマスクの使用等の実践研修を実施している。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実践力を身につけるように訓練や、ミニカンファレンスを行っている。利用者と共に訓練をしている。但し、介護度が上がり利用者を含めての訓練は難しくなっている。 年に数回月末に災害について勉強会を行うように努めている。	年1回、消防署の協力を得て昼夜の火災を想定した避難訓練、消火訓練、防災機器の点検、避難経路の確認を利用者も参加して実施している。独自に、年1回事業所内で自然災害を想定した避難訓練を実施している。事業所は地域と馴染みのある住宅街にあり、付き合いによる近隣住民との関係づくりが培われている。緊急連絡網に基づいて地元消防団へ協力要請もできる他、2カ月に1回、消防団員の来訪があり、防災対策の協力体制を築いている。災害時の非常用食品は備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに注意して、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシー確保に努めている。	職員は接遇について学び、代表者や管理者による指導「声のトーンや命令口調にならないこと、やさしく話しかけること」を通して、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の保管や取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者は待つ姿勢を持ち、自己決定できる雰囲気に取り組んでいる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合った1日を楽しく。充実感のあるように過ごしていただけるよう努力している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごと、またその日の気温に応じてその人らしい清潔な衣服で過ごされるよう。 又、髪の手入れにも気を付けている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いたり、食材の下ごしらえ等手伝ってもらい、食べることを楽しみにしてもらおうようにしている。 日々の食生活にも季節感を感じてもらえるものを取り入れるよう努力している。	事業所の菜園で収穫した野菜(大根、玉ねぎ、ゴーヤ、サンド豆など)や差し入れの野菜、旬の食材を使って三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者の好きなものや馴染みのあるもの、季節感のある献立を立てて、食べやすいように形状の工夫をして提供している。利用者はもやしの根切りや茹や豆の皮むき、おやつので盛り付けなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて、話をしながら食べている。職員は利用者一人ひとりの食事のペースに合わせた介助方法やタイミングで支援し、利用者が食事を楽しめるようにしている。おやつづくり(ホットケーキ)やケーキのつく誕生日会、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、クリスマス)、毎週日曜日の事業所特製のカレーライスなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量をチェックして記録。 不足時は工夫して摂ってもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けで口腔ケアをしてもらっている。 独りでできない人には介助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分で行かれる方は回数が何時もと比べてどうか。 訴えのあった方にはその都度対処。 尿、便意の有無の難しい人は声掛けをするなどして、それぞれに応じた支援をしている。 できるだけトイレで排泄して頂くように心がけている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導、見守りを行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。パットや紙パンツを使用する時には根拠をはっきりさせて家族にも説明をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が3日位になると何らかの工夫をするようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後からと一応決めているが、状況により午前中の対応もする。 シャワー浴、清拭、足浴もしている。 入浴時、できるだけ自分で洗髪、洗身可能の方には見守りで対応しています。	入浴は13時30分から15時の間、入浴できる他、希望すれば午前中にも入浴できる。順番や湯加減、季節の柚子湯等、利用者の希望に応じてゆったりとくつろいだ入浴になるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、入浴時間を変えたり、待ったり、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭やシャワー浴、足浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人の日誌にファイルして確認している。 薬はその都度、人を変えチェックして手渡している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意とすることや、できることを見つけ、自分がまだ役に立つのだという認識を持ってもらうように努めている。一人一人にできることを毎日、できるだけしてもらうように声掛けをしている。	洗濯物をたたむ、洗濯物を居室に収納する、カーテンの開閉、野菜の下ごしらえ(もやしの根切り、蒨の皮剥き)、おやつ盛り付け、テレビ視聴、アロママッサージ、歌を歌う、本や雑誌を読む、習字、ぬり絵、貼り絵、ちぎり絵、かるた、トランプ、季節の壁面づくり、おやつづくり、七夕飾りづくり、敬老会の飾りつけ、クリスマスツリーの飾りつけ、風船バレー、手足の体操、口腔体操、クリスマス会、保育園児との交流、神社での福引、ハートフルクリスマス参加、クリスマス会、蜜柑狩り、家族との外出等、利用者一人ひとりが活躍できる場面をつくり、気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	晴天の日にはその人の体力を考え屋外へ出ている。 季節毎の移り変わる花、景色を話題にして話しをしている。	海に見える事業所敷地内の散歩や玄関前のベンチでの日光浴、季節の花見(桜)、初詣、神社詣り、蜜柑狩り、ハートフルクリスマスに出かける他、家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や外食等、利用者の希望にそって出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心される方には持っていてほしい。 その他は家族の方に管理してほしい。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言われれば、電話をしてもらっている。(状態を見て)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、室温にも気を付けたり、季節に応じた対応をしている。 清潔を心がけゆったり地心地よく過ごしていただくよう心がける。	事業所は高台の住宅地にあり、天気の良い日には海が遠くまで見える。玄関やリビングには季節の生花を飾り、大きな窓にはゴーヤのカーテンで強い日差しを遮るように工夫している。リビングは明るく、広々としており、テレビやソファを配置し、畳コーナーもあり、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。台所からは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。壁面には季節の貼り絵や活動の写真が掲示してある。温度や湿度、換気、清潔に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然に居場所が定まり、レクリエーションの内容によっては席を変えてされている。 時には介護者が支援することもある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の筆筒、洋服筆筒。 写真(写真立て)などを飾り工夫している。 家族と自室で、話をしたり、お茶を飲んだりして過ごしてもらえ。	筆筒や衣装ケース、衣類、籐椅子、仏壇、ラジオ、ミニコンポ、鏡台、デジタル時計、クッション、帽子等、本人が使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真や習字作品を飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、屋内での歩行。 屋外でのシルバーカーの使用。 残存能力を見落とさないようにして、自分の力をどのように活用してもらうか。 過剰な介護でなく、自立した生活の維持を支援するように介護者の意識向上への努力をする。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム あいの家

作成日: 令和 3年 5月 31日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	15	事故防止の取り組みや事故発生時の備え	定期的な訓練、講習を行う	職員がこの評価のどこに日々の介護にとって活用できる意義があるのかを考え、活用しているのかを4か月に1回程、検討を行いたい。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。